

山梨県立甲府南高校 教科横断型授業「科学の世界」実践報告

甲府南高校のSSH事業の柱である「課題研究」の取り組みを通じて、生徒がより主体的で、広い視野で課題を発見し、探究のプロセスを充実させるために

～ 教 員 の 授 業 改 善 と 研 修 ～

1. 実施日 令和7年10月6日(月)
2. 実施科目 家庭基礎&数学I
3. 対象クラス 甲府南高校1年4組(普通科)
4. 学習指導案と生徒自己評価

山梨県立甲府南高等学校 教科横断型授業「科学の世界」 学習指導案

日時	対象クラス	実施場所	科目名	授業担当者
10月 6日 7限	1年 4組	1年4組	数学B&家庭基礎	中野・津島

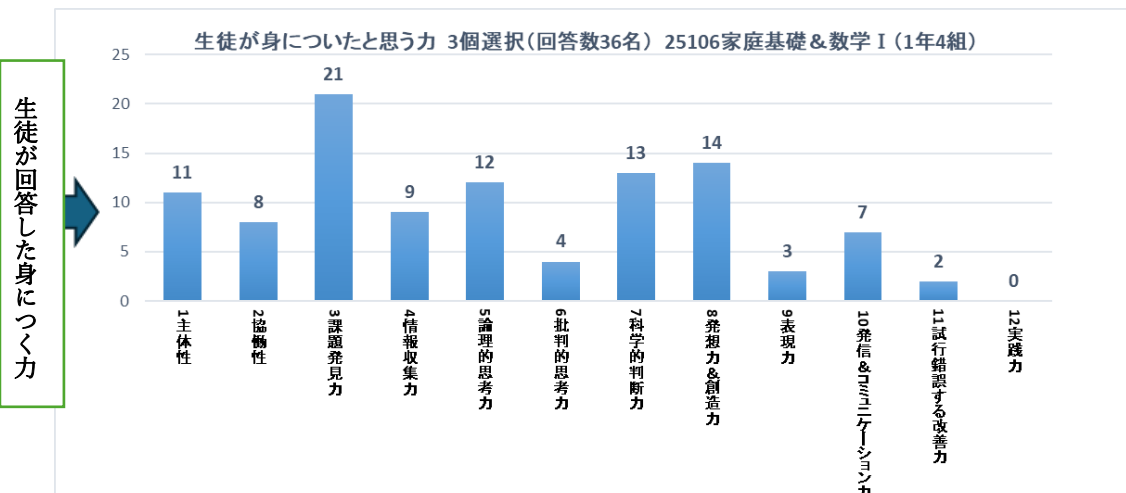
テーマ	概要
資産形成を数列で切る	インフレに伴い、運用が進められている積み立て式投資について学び、複利計算の法則性を見出すことや、月々の積立金額を算出することを目指し、生徒同士の交流を通じ、他者の考えに触れさせる。

山梨県立甲府南高校 「科学の世界」本授業で身につけたい力											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
主体性	協働性	課題発見力	情報収集力	論理的思考力	批判的思考力	科学的判断力	発想力&創造力	表現力	発信 & コミュニケーション力	試行錯誤する改善力	実践力
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

授業者が設定した南高SSHで身につく力

☐ を入れてください。

南高SSHで身につく力



R7【数学科・家庭科】授業デザインシート(案)

■学校名

山梨県立甲府南高等学校

■授業者

中野優汰 津島真奈美

■日時

2025 年 10 月 6 日(月) 7 時限 14:50～

■対象生徒

1 年 4 組 35 名

■教科・科目

数学・数学ⅡB 家庭基礎・経済

■場所

1-4 教室 (南館4階)

■数学科・家庭科の時間で育てたい生徒像

日常の事象は社会の事象をすう数学的に考え、関連付けることができる(数学) 人の生活の営みに係る多様な生活事象を学習対象とし、生涯にわたって自立し、ともに生きる生活を創造することができる資質・能力を育てる。(家庭)

■数学科、家庭科で共有されている生徒の現状と課題

学習能力が高く、興味関心を持ち何事にも積極的に取り組む生徒が多い。多様な事象から課題を見出し改善する力があり、プレゼンシートなどを作成し発信する力がある。他者と協働し問題解決を柔軟に行う機会が少ないことが課題となる

■単元名

数列、等比数列、利息計算(数学)、経済生活を営む(家庭)

■単元の目標(知識・技能/思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度)

日常で起きている事柄に規則性や法則性を見出し、事象の変化を漸化式で表すことで日常や社会の事象などを数学的にとらえ、数列の考えを問題解決に活用することができる(数学)
生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察できる(家庭)

■単元のねらい(書く問い、課題、探究テーマ)

- ・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、数列の考えを問題解決に活用できる(数学)
- ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。(家庭)

■使用教材

教科書: 数学B NEXT 数学B

教材: CONNECT 数学Ⅱ+B そのほか: パワーポイント配信資料 x

教科書: 家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍 教材: 家庭科55デジタル+ そのほか: パワーポイント資料、

■本時の目標、実現を目指す状況(育成を目指す資質・能力)

[思考力、判断力、表現力など]

■本時のねらい・目標

資産形成(家庭)を等比数列で切る(数学)

■主体的・対話的で深い学びの観点から、本時で実現したい生徒の姿(実現したい生徒の姿カードから2つ選択して貼り付ける)



思考して
問い続ける



多様な情報を
収集する

■本時の目標の実現を目指して生徒主体の授業を行うにあたり、どのような工夫や環境づくりを行うか

家庭科で使用した未来設計シートを参考に将来の貯蓄金額を設定し、どのように計算をするのかを考える。

資産形成にはリスクが伴うこと、長期で考えることを注視する。

数式を考えるとときの規則性法則性を見出すためのワークシート(配布)またはエクセルシート(配信)する。

■本時の流れ

■導入

- ・出席点呼
- ・本時の目標と説明を行う

■展開

- ・資産形成とその必要性を理解する。
- ・グループで資産形成のタイプを選び、数値化を行い規則性や法則性を見出す

■まとめ

インフレと貨幣の価値を理解し、長期で資産形成をすることのメリットを再確認する

■本時の目標に対する実現状況を評価するための①評価標準と②評価方法

評価の種類 [指導に生かす評価]

評価の観点 [思考・判断・表現]

① 本時の評価標準[「概ね満足できる」状況(B)と判断される生徒の姿(できるだけ具体的に)]

B:互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えをつなげ協働することができる

② 評価方法[どのように見取るか]

活動の様子、ワークシート